■ 2021.4.25　No232

脱原発情報

発行　双葉地方原発反対同盟　　責任者　石丸小四郎
970 － 8026　いわき市平童子町３－６　Ⅱ 903
TEL・FAX　0246-25-7737　携帯　090-4477-1641
E -mil：ishimaru19430106@gmail. com　ブログ「石丸日記」

海は　つながっている…　汚染水　海洋放出に抗議する！

第一原発の汚染水海洋放出を福島県民はもとより、自然界に働きかけ恩恵を受ける第一次産業など、多くの人が反対する中、政府・東電は合意なき手段を使い決定をした。その背後にあるものを探った。

第一原発（資料１）の海は、当然の事ながら、世界に広がり（資料２）の地球そのものである。

その、かけがえのない海にデブリで汚染された放射性物質を投棄するなど考えられないことである。

何故そうするのか…？

それを企てた人物は「第一原発は放射性廃棄物がどんどん増え続ける…汚染水など置いておけない！」と見ている。

その理由は、政府・内閣府が、第一原発、過酷事故の対策として設立された「原子力損害賠償・廃炉等支援機構」の「技術戦略プラン」に良く表れている。

（資料１）　第一原発と中間処理施設…

「この過酷事故は、その規模、深刻さに置いて世界に類を見ないものであり、廃炉技術は、我が国において蓄積された軽水炉の建設・運転・補修・廃炉技術の知見の域を大きく超えている」と言っている。

更に「事故を起こした３つの原子炉の廃炉について、それに必要な技術は、今は全くないし、その技術がいつ頃どのように開発されるのか、自分は知らない。200 年かかるかも知れない」(注１)　と語る人物がいる。

（資料２）　かけがえのない地球…そこに汚染水とは…

ようするに廃炉行程（ﾛｰﾄﾞﾏｯﾌﾟ）は相当長期にわたるものとなろう。現に、汚染水の発生がゼロになる時期は示されていない。更に、放射性廃棄物はあらゆる場所（原子炉・ﾌﾟﾛｾｽ建屋・排気筒・瓦礫等々）10 京ベクレル（兆の１万倍）以上がそこかしこにあり、即・命にかかわるような線量がある。

日本原子力学会は、全て更地にする場合約 760 万ﾄﾝに及ぶだろうと試算している。

こればかりではない！

62 種類の核種を除去するはずの「ｱﾙﾌﾟｽ多核種除去設備」からはフイルターや脱水されたスラリーが HIC（ヒック）と呼ばれる鋼鉄製のボックスに入れられ 4,000 基以上も存在するのだ。

それがどんどん増え続けている。

第一原発の深刻さは、発生し続ける余震で一層明らかになっている。

“東電が機能不全におちいる姿”は将来の不幸を暗示していると見る。

福島県沖 クロソイ基準値超え セシウム検出

2.13 余震による水位低下の関係か？

福島県漁業連合会は去る２月 23 日、新地沖試験操業でクロソイ（資料３）の１検体から、国の基準（100 ﾍﾞｸﾚﾙ／1 ｷﾛ）超えの 500 ﾍﾞｸﾚﾙのセシウムが検出されたと発表した。クロソイを出荷停止にしていると言う。

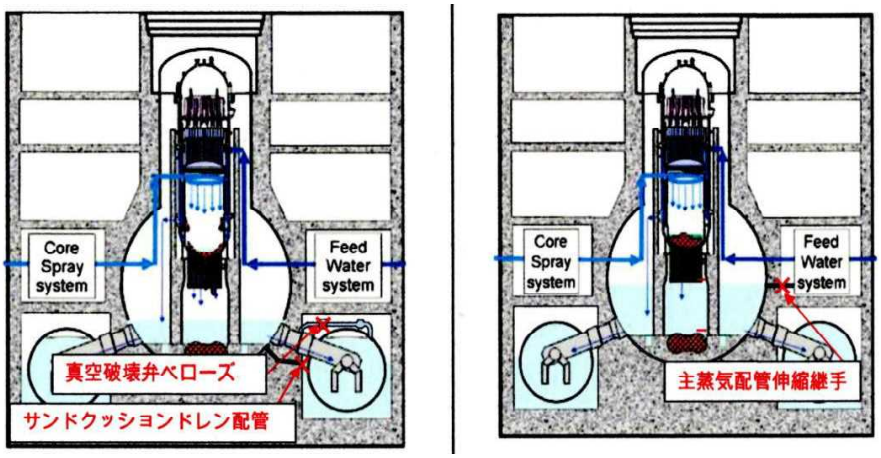
県漁連によると基準値超えの検体が見つかったのは 2019 年１月に広野沖で漁獲されたエイの一種コモンカスベ以来２年ぶりだという。県水産海洋研究センターによれば昨年１年間の調査で 4,261 検体（クロソイ 50 検体）の魚に基準値超えは見つかっていないとのことである。

（資料３）　出荷停止にしたクロソイ

何故、２年余り経った今…検出されたのか？である。

（資料４）　2021年2月13日の余震後の第一原発

２月 13 日（資料４）の余震後、１・３号機（資料５）の原子炉格納容器の水位が低下し、東電では「10 年前の東日本大震災で出来た損傷が広がった可能性と共に新たな漏えい箇所が発生した可能性は否定できない」と特定原子力施設監視評価検討会の中で発表している。



（資料５）１号機 原子炉格納容器　　３号機 原子炉格納容器

実際、水位の低下は汚染水が流れ出て、海を汚染している可能性も否定できない。確かに、２年間も検出されなかった魚に、いきなり基準値の５倍のセシウムが検出された事は見逃せないものである。とにかく東電の対応は機能不全に陥っている。同検討会の中でも原子力規制庁の安井交渉官は「格納容器は水を溜める場所ではないのに、これだけの加重をかけシステムは段々弱ってくることは明らかである。塩水も入れている。熱履歴もある。この部分が大きく裂ける恐怖は常にある。水位をいつまで下げるのか…が妥当な対策だ！具体的政策を持って水位を下げる必要がある。負荷を下げることだ！もっと大きな地震が来るかも知れない。検討します！…は長い間何度も聞いている。検討する間に津波が来てしまった例がある」と危険性を露わにしている。

（資料６）　放射能漏洩コンテナ

（資料６）にあるように７日に「第一原発コンテナ 4,000 基、中身不明のまま放置」と報道されている。更に、プロセス建屋で１人作業（禁止されている）で道に迷い SOS を発した社員がいた。その指示を出したのが、先輩社員だったという。

何度も言うが、第一原発現場は機能不全に陥り…いつ“避難指示”が出るか、知れたものではない！

東電交渉　再開 59 回目

ｊヴレッジの高レベル土壌汚染 第二原発に搬入した？！

4 月 7 日、再開後 59 回目の東電交渉が行われた。最初に「福島第一原発事故炉の安全対策と中長期ﾛｰﾄﾞﾏｯﾌﾟの見直しを求める要請書」を提出した。その後、前回の積み残し案件から始まった。

東京電力ホールデングス（株）
代表執行役社長　小早川　智明様

2021 年 4 月 7 日
県内 10 市民団体

（要旨）

福島第一原発事故炉の安全対策と中長期ﾛｰﾄﾞﾏｯﾌﾟの見直しを求める要請書

・第一原発事故は、未だ、政府の「原子力緊急事態宣言」が解除されず住民避難が続いている。

・2 月 13 日 23 時 7 分、福島県沖地震（M 7.3、最大震度 6 強）の第一原発への影響は 19 日以降、1・3 号機の格納容器水位が低下したと公表。以降、注水量を増やした。しかし、その後も水位低下が続くところから、新たな損傷箇所が発生する可能性がある。それだけに建屋内部の損傷やｺﾝｸﾘｰﾄ等の劣化進行と地震による倒壊を防止する安全対策が急務である。

・21 日には、1 号機、格納容器の圧力低下が判明。これも 10 年前の事故による損傷部分が水位低下で露出し気体が漏出し、圧力低下した可能性があるとされている。

・22 日には、3 号機の地震計 2 台が故障したまま放置し、地震ﾃﾞｰﾀが記録できなかったことも発覚。貴社の安全管理の酷い実態がある。

・更に、汚染水ﾀﾝｸ 53 基の位置ズレが報告された。

・柏崎刈羽原発での中央制御室への ID 不正入室事件や福島第二原発でも ID 紛失事件など核防護管理上、重大事案が頻発し、経営責任と管理体制が厳しく問われて、原子力事業者として適格性に欠けている。

・原子力規制委員会の事故分析検討会中間とりまとめにおける、2・3 号機の原子炉格納容器上蓋のシールドプラグや 1・2 号機排気筒基部の高濃度汚染などの現状から、被曝低減を前提に、事故収束作業と廃炉工程の大幅見直しが必要である。

・30 ～ 40 年で廃炉という中長期ﾛｰﾄﾞﾏｯﾌﾟの杜撰さも明らかで廃炉のあり方を議論をする時である。

以下を要請し、速やかな回答を求める。

記

1、2 月 13 日の福島県沖地震による事故炉の原子炉格納容器の損傷を点検し、格納容器の水位、圧力低下への対策。及び安全対策を明らかにすること。

2、3 号機の故障地震計を放置した責任の所在と管理体制の是正策を明らかにすること。

3、1.2 号機の格納容器上蓋のｼｰﾙﾄﾞﾌﾟﾗｸﾞ及び同機排気筒基部の高濃度汚染等への対応策を示すこと。

4、被曝低減の最大化を前提に廃止措置等の中長期ロードマップの見直しを図ること。　以上

①米と黒毛和牛の賠償について（東電の事案）

（東電）～現在も風評被害に合われた方に適切に賠償している。内容、件名等については回答を控える。震災以降当社が出来る限り取り組む共同購入・食堂、社内ﾏﾙｼｪなどで福島県産の購入をして来た。ふくしま流通促進室を設置しﾃﾞﾊﾟｰﾄ、ｽｰﾊﾟｰでの県産品販売について継続している。いわきの「漁食の日」などに取り組んでいる。

②第一原発汚染水の貯蔵管理と処理費用について

（東電）～ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ予算管理は 2018 年度の廃炉等積み立て金制度以降行っている。ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ内訳管理は 2018 年度以降実施している。金額は廃炉等積立金の額は 2018 年度約 668 億円、2019 年度約 482 億円、2020 年度約 506 億円である。（HP 掲載）

③ｊヴレッジの現状回復工事の内容について

（東電）～現状回復工事について「福島県は了解したのか？」の質問であったと理解している。返還に当たり、環境省、福島県電源地域復興財団の関係者と協議の上、廃炉ｴﾘｱとして利用して来たﾋﾟｯﾁ、ｽﾀｼﾞｱﾑ、楢葉町駐車場について原状回復工事を実施してきた。回復工事は線量低減の実施も含め元の状態にしてお返しする工事であった。8,000 ﾍﾞｸﾚﾙ／kg を超える物は福島県電源地域復興財団と情報を共有していた。

（諸団体）～福島県電源地域復興財団も了承していたのか？

（東電）～情報を共有していた。

（諸団体）～納得了承していたのか？

（東電）～今、申し上げた通りだ。

（諸団体）～繰り返しになるがＪヴッジ本館隣接地にある楢葉町駐車場に土壌、ｱｽﾌｧﾙﾄ・ｺﾝｸﾘｰﾄ、防球ﾈｯﾄ、ﾃﾆｽﾏｯﾄなど合計 52,818 立方ﾒｰﾄﾙの汚染物質があった。中には 118 立方ﾒｰﾄﾙの線量が **103 万ﾍﾞｸﾚﾙ／ｷﾛｸﾞﾗﾑ**もあった。これも一緒に始末したのか？

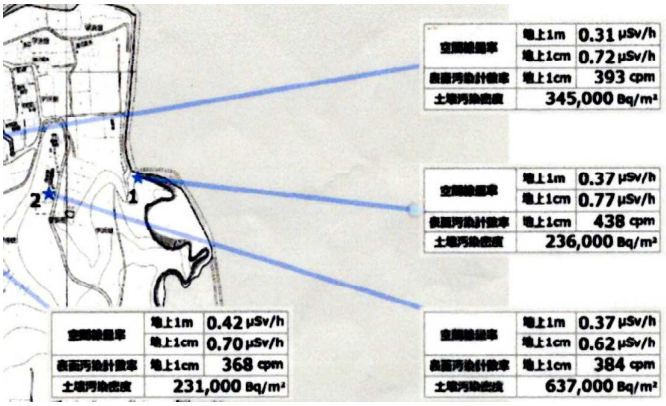
（東電）～ 52,818 立方ﾒｰﾄﾙは指定廃棄物ではない。楢葉駐車場の高線量土壌は土嚢袋、ﾌﾚｺﾝﾊﾞｯｸで福島第二原発に運び込んで保管している。放射性土壌なので今後、慎重に検討する。

（諸団体）～この土壌はいわき市久ノ浜の防潮提に運んだという情報もある。これは無理があるように思う。推測するところ、Ｊヴッジや第二原発からも近い波倉防潮堤の可能性がある。その理由は、防潮堤の近傍の土壌汚染密度（ﾍﾞｸﾚﾙ／㎡）が極めて高く 637,000 ﾍﾞｸﾚﾙ/㎡もある。放射線管理区域 40,000 ﾍﾞｸﾚﾙ／㎡の 16 倍、周辺と比べ 2.6 倍や 1.8 倍もある。住民も生活しており異常だ！**（資料 7）** 改めて聞くが、汚染土壌を運び込んだ業者・建設会社は何処なのか？

（東電）～資料がないし、理由も分からない。

（諸団体）～実は福島県に情報開示して、防潮堤建設関連会社名は分かった。汚染土壌を運び込んだ運送会社は何処なのか、次回回答して欲しい！汚染地図はコピーしても結構だ。

（東電）～了解した。



（資料７）「２」 は防潮堤の近傍で 637,000 ﾍﾞｸﾚﾙ／㎡もある

（諸団体）～福島県も了承したというが、昨年聖火ﾘﾚｰ問題が論じられていた時、Ｊヴッジに指定廃棄物が実在していた。そのことも福島県は了承していたのか？そう考えていいのか？

（東電）～情報を共有していた。それ以上の事は当社から言えない…。

（諸団体）～福島県に聞いてみる。更に、原状回復工事と言うことも了としていたのか？

（東電）～その通りで元の状態に戻すことだ。

（諸団体）～回復は除染と同等、それ以上の…と言うことだった。どうしてあんなに線量の高いところなのか？

（東電）～そこはお詫びしなければならない。気が付かなかった理由を調べたら、返還に当たり環境省と協議の上、原状回復工事をした。その当該の場所については復旧工事の場所以外だったため、そこを回復工事をしなかった。環境省のｴﾘｱでもなかった。線量制限が図られなかった。駐車場脇の高線量箇所は当社利用したｴﾘｱの外だったが、その近傍だったため気付くべきあったこととして反省している。

④前回「多核種除去設備処理水二次処理性能試験」で白濁（白い濁り）があった件について

（東電）～ﾌｲﾙﾀｰの一部に削れているところが有ったが、まだ調査中である。

⑤多核種除去設備概要と処理対象設備について

（諸団体）～当問題について情報開示が不十分である。前回はｷﾁﾝと説明して欲しいと話した。

（東電）～**約５分間、説明**

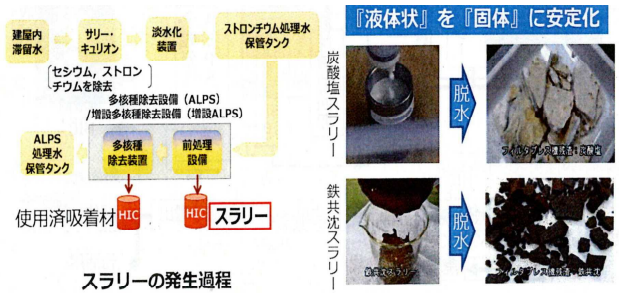
（諸団体）～内容を分析し次回に質問したい。

⑥ｽﾗﾘｰの安定化処理に向けた設計について

（東電）～**約５分間、説明**

（諸団体）～時間もないので一つだけ質問する。**（資料８）**のｽﾗﾘｰの性状がある。約 1 × 10 ⁶ﾍﾞｸﾚﾙ／cm ³ と約 4 × 10 ⁷ﾍﾞｸﾚﾙ／cm ³ はcm ³ ＝ 1 ｾﾝﾁ角の小さな物に 100 万ﾍﾞｸﾚﾙと 4,000 万ﾍﾞｸﾚﾙという凄い線量が内在していることであろう？

（東電）～その通りだ。　　以上



（資料８）ドロドロの液体状の物質が乾いて凄い線量…

次回　６月２日（木曜日）13：00 ～ 15：00

あらかぶ裁判、いよいよ天王山へ

池田　実

あらかぶさん裁判（福島原発被ばく労災損害賠償裁判）の第 17 回口頭弁論が 4 月 7 日 14 時から東京地裁 103 号法廷で行われた。

私たち「あらかぶさんを支える会」は、13 時過ぎから裁判所前でチラシ配布とアピール行動を行った。コロナ禍ということで大法廷の傍聴者も 44 人に制限されたため、傍聴席はいっぱいになり入廷できない人が外で待機することになった。

口頭弁論では、原告から「第 20 準備書面」（福島第 2 原発における原告の被ばく線量）と「第 21 準備書面」（原告の作業状況）と証拠書面を提出した。

被告からは、東電が「準備書面 10」、九電（玄海原発）が「準備書面 12」「準備書面 13」と証拠書面を提出した。

原告代理人の大河陽子弁護士が原告の第 20 準備書面の説明を行った後、裁判長から、今後の進行について双方の意向を聴いた。結果、6 月末までに原告が被ばく量算定の書面を提出、それを受けて、被告の東電、九電が、原告が提出した書面と 6 月末提出の書面に対する反論を 10 月の期日までに提出することを確認した。

最後に、次回、「7 月 14 日（水）14 時」、次々回、「10 月 8 日（金）11 時」の弁論期日を確認し終了した。

15 時から、衆議院第 2 議員会館多目的室で報告集会を開いた。

海渡弁護士から今日の口頭弁論の内容について報告、今後の進行について「人証が今年中に始まり、来年中には結審、判決が想定される。いよいよ裁判は天王山に入る」と語った。

続いて、原告・あらかぶさんと、支える会のなすびさんが登壇し、当時の作業状況についてスクリーンを示しながら説明した。

最後に、あらかぶさんから「コロナで約 1 年ぶりの上京となりましたが、みなさんの支援にしみじみ感謝してます。最後まで頑張ります」という決意を受け終了した。

猪狩過労死裁判一部勝訴

（資料９）　裁判所前の支援者

ありし日の猪狩忠昭さん

３月 30 日に４年前、第一原発で勤務中の猪狩忠昭さん（当時５７）が過労死したのは、適切な労務管理を怠ったことが原因だとして、遺族が損害賠償を求めた裁判で 2,480 万円あまりの賠償を命じた。

この裁判は「いわきオール」に勤務し、第一原発の構内で作業中に死亡し、のちに過労死と認定された遺族が、勤務を適切に管理せず、健康に対する配慮を怠ったなどとして、勤務先の会社と元請けの宇徳と東京電力に、損害賠償を求めていたものである。

同判決で、同裁判所いわき支部の名島亨卓裁判長は、「タイムカードなどで長時間労働の事実などを容易に認識でき、安全配慮義務違反が認められる」として「いわきオール」と経営者夫妻に連帯して上記の賠償するよう命じた。しかし、宇徳と東京電力に対する訴えは棄却され退けられた。

遺族は「原発関連の労働者の労働環境が少しでも改善され、夫のような犠牲者が出ることがないよう願いながら裁判に臨んできたので、請求が一部棄却されたことは納得いかない」と話している。

遺族と「福島第一原発 過労死責任を追及する会」は控訴して引き続き闘うこととしている。

多重下請け…末端だけの責任は納得できない！

いま問われる！！市民の声が生かせる議会の役割

佐藤　弘（三春町議会議長）

住民の意見や要望を、選挙以外の場で主権者である国民の意思を反映させるものとして、日本国憲法第 16 条で請願権が保障されています。

三春町議会においても市民の請願・陳情は常に受け付けています。10 年前、原発事故が起きてからは、原発関連の請願・陳情も多く、3 月定例会においては、「甲状腺検査の学校検診の継続」の陳情が出され採択されています。

放射能を含む処理水の処分については、昨年 6 月議長として「議会は明確な意思を示すべき」と判断し議会として、海洋放出反対の意見を議会提出議案としました。市民団体からも同様の陳情もあり、三春町議会は「水蒸気放出・海洋放出に反対」の意見書を採択しました。

（資料10）住民の声を政治に佐藤議長

その後、県内４１市町村の議会で、市民による請願や陳情、または議会提案などで、「海洋放出反対・慎重」の決議が行われました。政府は県内の各自治体、全国各地で公開の公聴会を開き「処理水は安全、何ら問題はない、海洋放出が有力」などとし、多くの反対意見があっても、海洋放出ありきを言い続けるばかり。

（資料11）いわきの仲間が市民に訴える

又、県も処理水について明確な態度を示していません。昨年 12 月、市民団体から、「処理水の政府説明会を三春町で行うよう」要望書が提出されました。要望書の取り扱いについて議論をし、反対決議をしているので「今、政府説明会を要望することは適切でない」と判断。議会は、３月議会で福島県知事に「国に対し明確に放出に反対をするよう」意見書を提出することとし、市民団体にその旨を伝え話合いをしました。３月議会で、議会提出「多核種除去設備等処理水の水蒸気放出及び海洋放出について明確に反対するよう求める意見書」を採択し、福島県内堀雅雄知事宛に提出しました。

そんな中の、4 月 13 日、民意を無視するかの如く、政府は、東京電力福島第一原子力発電所の処理水（汚染水）を海洋放出する方針を正式に決めました。　議会（議員）活動は「地域住民が、何を思い、何を考え、求めているかを把握」し、要求、要望等を事前に議会として取り上げ、議員提出議案として議決することが求められています。地方の意見を施策に反映し、地方自治体の自主性・自立性・独立性を確保するために、法に基づく意見書の実効性を担保することが求められます。市民の声が政治に生かされ、政治がくらしのためにある事を市民と供に実感できるよう、多くの声を議会にあげ、議論を重ね、政治に活かしましょう

出典　文献

・（資料１）朝日新聞　2019.11.5・（資料２）地球映像ネットワーク・（資料３）市場魚介類図鑑・（資料４）ＮＨＫニュース・（資料５）東京電力ＨＤ・（資料６）東京電力ＨＤ・ＮＨＫニュース・（資料７）ふくいち周辺環境モニタリングプロジェクト・（資料８）東京電力ＨＤ・（資料９）編集部、遺族提供・（資料 10）編集部・（資料 11）社民党いわき双葉総支部・（注１）外国紙 Thi Times of London 掲載 東京電力要人 世界 SEKAI 2016 年 3 月「凍土壁が抱え込んだ 1F 汚染水問題の困難」浅岡顕